

「チャペルに思うこと」

岩城嗣郎（1964年英文科卒）

私が入学した頃の入学式・卒業式はチャペルで行われていたように記憶しています。その式の中で当時の高橋源次学長の「神と人ともに愛される者となってほしい」の言葉と共に、暗い中にも何か厳粛な雰囲気を持つチャペルの印象が強く残っています。

残念ながら、チャペルアワーには何度か出席はしましたが、思い出となるようなものはありません。

明治学院の教育理念は、キリスト教教育にあることは言うまでもありません。そのバックボーンとも言える神学部は現在残っていませんが、チャペルは建築物でありながら、学院の理念や理想といった全てを内包しているよう思えます。その思いは卒50年以上たった今、より強いものとなっています。学院の象徴でもあるチャペルは、そこで学んだ者として、心の故郷でもあると思います。